

9 和 野 橋 前 だ よ り



大槌まつり

待っていました。町は無くなっても、この日だけは遠くに働きに行っている若者も、居ても立ってもいられなく、大槌へ向かう夜行バスに飛び乗り走せ参じ、さっそく祭り半天に足袋、はち巻き姿に早変り、大鼓の音、笛、おはやしに踊る人、見る人、この時ばかりは、一体となって、心や体がリズムにつられ、自然と動きます。郷土芸能、大槌まつりは震災のつらさも忘れ、沢山の人の笑顔、笑顔、「大槌人ここに有り」とつかの間の喜びに身を躍らせます。

自然災害に そなえる

この近年、頻繁に日本列島のどこかで土砂災害等が起き、テレビの映像に被害の甚大さ、犠牲者の数、救出活動の困難さに、あの時の大槌の状況が蘇り胸が苦しくなります。地球規模で進む温暖化で、日本全体の流域の今迄の災害標準、基準スタイルが確実に変化しているのを肌で感じ、今後何に遭遇するのか不安にかられます。安全は保障されていません。自分の命は自分で守る。常に危機意識を持って判断力、行動に移すことが肝心です。

